大阪商業大学

「世に役立つ人物の養成」に必要な４つの柱、
「思いやりと礼節」「基礎的実学」「柔軟な思考力」そして、「楽しい生き方」

	環　境	課　題	対　策
学内	社会と連携した「実学教育」の推進と、起業家の育成（企業家精神の養成と起業家的な資質・能力の育成）や地域活性化への貢献を目指すことを目的として「リエゾンセンター」が設立されている。	「社会と連携した本学学生に対する起業教育」および「本学と高等学校が連携した高校生に対する起業教育」を柱とする「社会と連携した起業教育」。「社会との連携による地域活性化」すなわち本学が持つ「知的資産の社会への還元」。	講義による教育+フィールドワークをなどの実践教育により、問題解決能力を向上させるカリキュラム。学外から与えられたテーマに対し、問題解決策の実施までを行うプロジェクト形式の演習。
学外	大学学修課程の中で、学生が社会の現状を分析し、社会が抱える問題を発見し、解決策を見出し、遂行していく能力＝社会的問題解決能力を養成していくことが社会的ニーズとして高まっている。	産学連携・社学連携について、短期的な時間軸で捉え、学生を離れたものになりがちである。	テーマを提供する、地域行政・NPO・中小製造業者・商店街組織・社会福祉団体医療機関などが、企業家精神を持った人材輩出について理解を示すことができるように、公開講座などで実績を作る。

「売り」「特徴」

☆「実践教育による社会的問題解決能力の養成」カリキュラム=フィールドワークを活用したプロジェクト型演習で、地域行政・NPO・中小製造業者・商店街組織・社会福祉団体・医療機関などの抱える問題をテーマとできる。

キーワード

世に役立つ人物の養成
実践教育による社会的問題解決能力の養成

具体的ニーズ

重点分野	連携対象となる企業技術
「実践教育による社会的問題解決能力の養成」カリキュラム=フィールドワークを活用したプロジェクト型演習。	「実践教育による社会的問題解決能力の養成」カリキュラム=フィールドワークを活用したプロジェクト型演習に対し、テーマ提供できる地域行政・NPO・中小製造業者・商店街組織・社会福祉団体・医療機関。

相談実務

相談の際の留意点	相談の手順
産学連携・社学連携について、短期的な時間軸で捉えず、教育すなわち学生を離れたものにならないことが前提。	①テーマを大学に提示②テーマが演習単位で受託③フィールーワークを活用しプロジェクト推進③問題解決策を企画し、テーマ提供元からの評価を受け、学生が実行。④各演習は、学内で開催する成果報告コンペティションで自らのプロジェクトを総括し、終了。